

# 多文化共生の視点を導入した中学校技術・家庭科 家庭分野における衣文化の授業

Lesson Study on Clothing Culture for Junior High School  
Home Economics Field, in the subject of Technology and Home Economics,  
adopting Multicultural Points of View

上野 顕子<sup>1)</sup>

Akiko UENO

星野 洋美<sup>2)</sup>

Hiromi HOSHINO

## 1. 研究の背景

2020年10月末時点で、日本における外国人労働者数は過去最高を更新し約172万人、10年前と比較すると、2倍以上となっている(厚労省, 2021)。また、外務省「海外在留邦人数調査統計令和2年(2020年)版」によると、3か月以上海外に在留し、生活の本拠を他の国に移した永住者と、一時的に海外で生活をしている長期滞在者を合わせた日本人の数は、約140万人であり、海外で生活する日本人も継続的に増加している。

これに伴い公立学校に在籍する外国籍の児童生徒数も増加しており、2019年、約9.3万人となり、こちらも過去最高を記録している(文部科学省)。このような状況下、外国につながるのがある児童生徒と、主に日本文化のもとで育ってきた児童生徒が相互理解をはかることや、多文化共生意識を育むことの重要性は増している。

文部科学省は、2019年に、2011年に作成した『外国人児童生徒受入れの手引き手続き』を改訂した。この手引書は、外国人児童生徒

等を直接指導する日本語指導担当教師、日本語指導の支援者、外国人児童生徒等の在籍学級担任、学校の校長・副校長・教頭などの管理職、市町村教育委員会の担当指導主事、都道府県教育委員会の担当指導主事を主な対象者として作成されている。「外国人児童生徒等教育にかかわる様々な人々が、それぞれの立場で具体的にどのような視点を持ち、どのような取組を行うことが必要か」が示されている。外国人児童生徒等を受け入れる学校の課題として、「外国人児童生徒等が学級で受け入れられるためには、『異文化理解』『多文化共生』『人権の尊重』などの教育が必要不可欠」(p.10)と書かれている。また、そうした児童生徒が「安心して学び、生活できることは非常に重要」(p.10)とも言及している。

生活を学習内容とする家庭科教育においても、多文化共生に関して様々な指摘や取り組みがなされてきた。例えば、日本家庭科教育学会が21世紀を前にして発行した書籍『家庭科の21世紀プラン』の中で、「個としての自立も果たしながら、家族をはじめ、周辺の人々との交流も大切に育て、また大きくは国際人としても生きていく(現代に即した生活

<sup>1)</sup> 金城学院大学生生活環境学部

<sup>2)</sup> 常葉大学教育学部

者となる)ことの出来る素地を育成するのは、家庭科の使命であると言っても過言ではない」と示された(佐藤, 2000, p.37)。また、同書の中で、「世界で共存する一市民, 一国家として生活問題を自ら判断し, 処理する問題解決能力」(池崎, 2000, p.56)が必須となることも言及されている。さらに、日本家庭科教育学会は、2014年度~2016年度に「グローバル化と家庭科」をテーマに課題研究を行っている<sup>(1)</sup>。

では、現行の2017年告示の小学校と中学校学習指導要領、及び2018年告示高等学校学習指導要領のうち、小学校「家庭」、中学校「技術・家庭」、高等学校「家庭」の学習指導要領解説をみてみよう。すると、「グローバル化に対応して、日本の生活文化を継承することの大切さに気付くことができるよう」にや、「グローバル化に対応した日本の生活文化等に関する内容を充実する」との文言が確認できる。ここでのグローバル化への対応は日本の生活文化に焦点が当てられているように読める。

しかし、グローバル化のさらなる進行が予測される社会で生活する子どもたちには、前述の手引書が示すように『異文化理解』『多文化共生』『人権の尊重』などの教育が必要不可欠である。

そこで、本研究では、家庭科教育での「衣食住の学習がアイデンティティの育成や異文化理解に繋がることから」(星野, 2010, p.185)、衣食住の生活文化の内容を通した多文化共生教育に着目した。家庭科教育における衣食住の生活文化の内容を通した多文化共生教育の先行研究は数少ない。食生活に関わる先行研究は複数見られるが(堀, 安永, 前田他, 2005; 山崎, 池崎, 2011; 星野, 2017)、衣生活に関わるものとして本稿執筆時点で確認できたのは、中学校の家庭分野に

において、中国人留学生をゲストティーチャーに招き、中国の食文化や衣文化について授業を実施したという半田(2017)の取り組みのみであった。この授業実施後、生徒たちの「中国」の国のイメージはあまり変化が見られなかったが、「中国人」に対するイメージに関しては肯定的なイメージに変化させることができたと報告されている。一方、この実践では、すべての家庭科教員がゲストティーチャーを招くことには難しさがあり、家庭科教員自身が行える授業で国際理解を促すことが課題と指摘されている。

## 2. 研究目的および方法

### (1) 研究目的

これらを踏まえ、本研究では、多文化共生が進むカナダの中等教育学校で実施した先行研究<sup>(2)</sup>をもとに、日本の中学校の技術・家庭科家庭分野で実施できるよう、多文化共生の視点を取り入れた衣食住の生活文化に関する教材を開発した。本稿では、そのうち衣生活の内容を通して多文化共生に関する授業実践を行い、その効果と課題を明らかにすることを目的とした。

### (2) 研究方法

本研究では、「世界の民族衣装から衣文化を考えよう」という題材名で、韓国、ミャンマー、ペルー、インド、スコットランドの民族衣装に関する教材を作成し(資料1・資料2)、調査協力に同意を得た中学校技術・家庭科家庭分野担当教員の協力のもと、授業を実施した。学習指導案は、資料3に示す通りである。生徒の学習活動の概要を以下に示す。

- ①知っている民族衣装を口頭で発表し、様々な種類があることに気付く。
- ②グループに分かれ、各班で、他の国の民族衣装の上半身、または下半身のイラストが描かれたグループ用ワークシートを受け取る。
- ③グループ用ワークシートに書かれている、その国の気候や生活文化についての説明文をもとに、下半身、または上半身はどんな服かを考え、イラストを描く。また、なぜ、そのような服の絵にしたのか、理由を考える。
- ④各班のイラストをクラスに発表する。
- ⑤授業者から示される元の民族衣装のイラストと自分達が考えた衣装を比較する。
- ⑥それぞれの民族衣装の違いとともに、その国の気候や生活に合った工夫がされているという共通点に気付く。

効果測定のために、上記授業実践の前後に質問紙調査を行った。調査内容は、生徒の特徴に関する3問（対象者が関係する文化背景、他の国への渡航経験、日本語の話せる程度）、及び他の国の文化への関心、対象教材に関する相違点と相似点、多文化学習に対する興味関心などに関する10問である。後者の10問は、5件法で行い、分析時には3件法に修正し、授業前後で比較した。

授業と質問紙調査は、2020年1月～2月に実施した。調査対象はA県a中学校とB県のb中学校の1・2年生、計168名で、質問紙の有効回答数は153（有効回答率91.1%）である。調査結果の分析にはIBM SPSS (Vr.26)を用い、授業前後比較においてカイ二乗検定をおこなった。

### 3. 結果

#### (1) 生徒の特徴

a中では8.1%が、b中では2.0%が、アメリカ、中国、フィリピン、ブラジルなど、自分や自分の家族に日本以外にも関係する他国の文化があると回答した。

「日本以外の他国に行ったことがあるか」は、a中では、27.3%が、b中では、25.9%が行ったことがあると回答した。

日本語の話せる程度については、a中、b中ともに、88.9%が「学校の授業でもふだんの生活でも問題なく話せる」と回答した。

以上のいずれの項目についても、2校での有意差は認められなかった。そのため、以下では、2校の結果を合わせて分析した。

#### (2) 授業前後の質問紙調査

まず、「他国の民族衣装に興味があるか」（図1）については、授業前では、「興味がある」が33.3%で、「どちらともいえない」が55.6%で最も多く、「興味はない」が11.1%であった。それが、授業後には、「興味がある」が71.2%に増加し、最も多くなった。授業前後比較において有意差も認められた( $p<0.001$ )。

「他の国の民族衣装を着てみたいか」（図2）については、授業前では、「着てみたい」が25.6%で、「どちらともいえない」が51.0%で最も多く、「着てみたくない」が22.9%であった。それが、授業後には、「着てみたい」が62.1%に増加し、最も多くなった。授業前後比較において有意差も認められた( $p<0.001$ )。

「自分の生活に他の国のファッションなどを取り入れてみたいか」（図3）については、授業前では、「取り入れてみたい」が26.1%で、「どちらともいえない」が51.0%で最も多く、「取り入れてみたくない」が32.7%であった。

それが、授業後には、「取り入れてみたい」が47.7%に増加し、最も多くなった。授業前後比較において有意差も認められた ( $p<0.001$ )。

「様々な国の民族衣装の違いはなぜ生まれるのか説明できるか」(図4)については、授業前では、「できる」が5.9%で、「どちらともいえない」が85.0%で最も多く、「できない」が9.2%であった。それが、授業後には、「できる」が62.1%に増加し、最も多くなった。授業前後比較において有意差も認められた ( $p<0.001$ )。

「ファッションだけではなく、食べ物や住まい方など他の国の生活文化に興味があるか」(図5)については、「興味がある」が52.3%で最も多く、「どちらともいえない」が36.6%、「興味がない」が11.1%であった。それが、授業後には、「興味がある」が69.3%に増加した。授業前後比較において有意差も認められた ( $p<0.01$ )。

「生活文化が違うことを違って良い意味でおもしろいと思うか」については、「思う」(図6)が61.4%で最も多く、「どちらともいえない」が19.0%、「思わない」が19.6%であった。それが、授業後には、「思う」が81.0%に増加した。授業前後比較において有意差も認められた ( $p<0.01$ )。

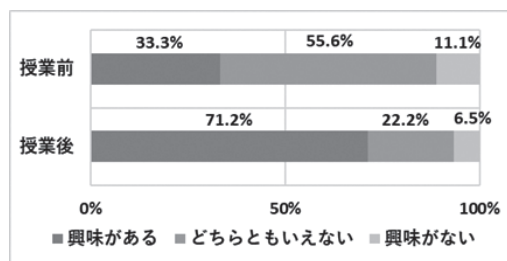
「日本と他の国の生活文化には似ているところがあると気付いているか」(図7)につ

いては、「気付いている」が34.0%で、「どちらともいえない」が45.8%で最も多く、「気付いていない」が20.3%であった。それが、授業後には、「気付いている」が52.9%に増加した。授業前後比較において有意差も認められた ( $p<0.01$ )。

「家庭分野の授業で、他の国の生活文化について学びたいか」(図8)については、「学びたい」が49.0%で最も多く、「どちらともいえない」が21.6%で、「学びたくない」が29.4%であった。それが、授業後には、「学びたい」が66.7%に増加した。授業前後比較において有意差も認められた ( $p<0.01$ )。

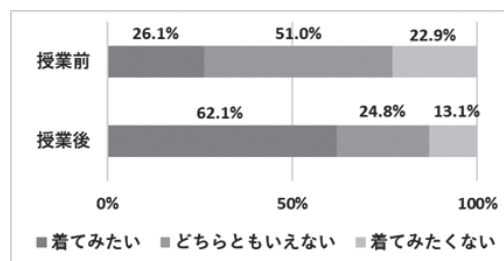
「様々な文化背景を持つ人々が同じ地域で生活するために、お互いの生活文化を学ぶことは大切だと思うか」(図9)については、「思う」が73.9%で最も多く、「どちらともいえない」が11.1%で、「思わない」が15.0%であった。それが、授業後には、「思う」が79.7%にわずかではあるが増加した。授業前後比較において有意差は認められなかった。

「もし機会があれば、自分の生活文化を他の国の人々に紹介したいか」(図10)については、「したい」が41.2%で最も多く、「どちらともいえない」が35.3%で、「したくない」が23.5%であった。それが、授業後には、「したい」が52.9%に増加した。授業前後比較において有意差は認められなかった。



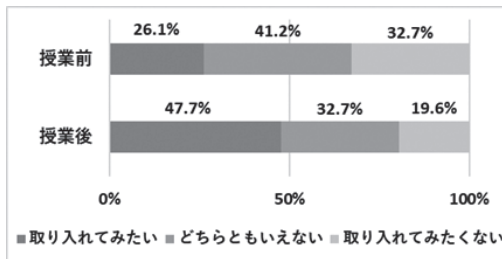
( $X^2$ 値=44.697,  $df=2$ ,  $p<0.001$ )

図1 他の国の民族衣装に興味があるか



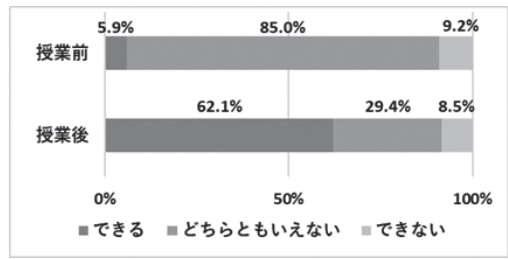
( $X^2$ 値=40.291,  $df=2$ ,  $p<0.001$ )

図2 他の国の民族衣装を着てみたいか



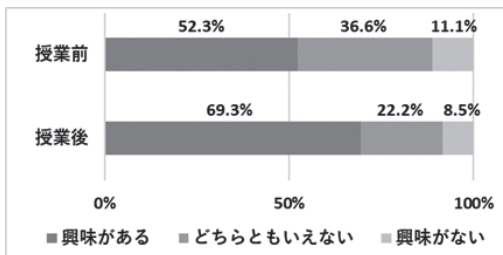
( $X^2$ 値=16.133, df=2, p<0.001)

図3 自分の生活に他の国のファッションなどを取り入れてみたいか



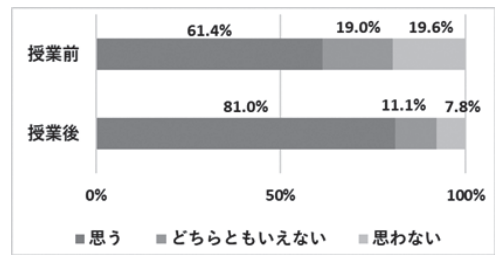
( $X^2$ 値=112.438, df=2, p<0.001)

図4 様々な国の民族衣装の違いはなぜ生まれるのかを説明できるか



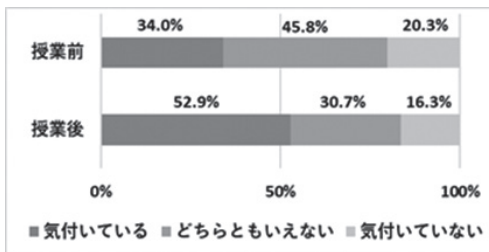
( $X^2$ 値=9.546, df=2, p<0.01)

図5 ファッションだけではなく、食べ物や住まい方など他の国の生活文化に興味があるか



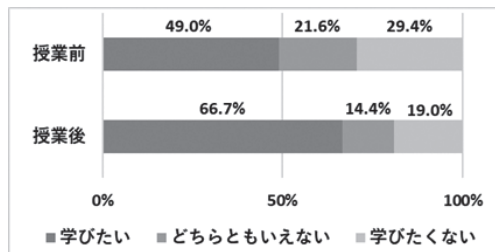
( $X^2$ 値=14.973, df=2, p<0.001)

図6 生活文化が違うことを違って良い意味でおもしろいと思うか



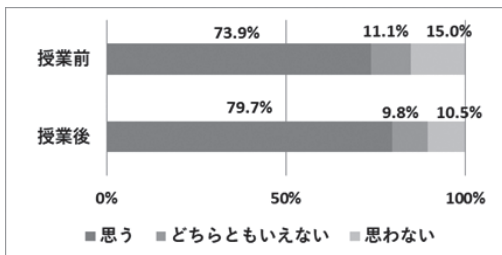
( $X^2$ 値=11.488, df=2, p<0.01)

図7 日本と他の国の生活文化には似ているところがあると気付いているか



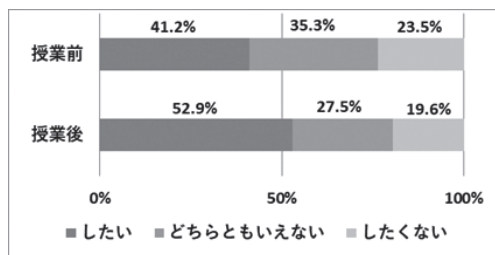
( $X^2$ 値=9.778, df=2, p<0.01)

図8 家庭分野の授業で、他の国の生活文化について学びたいか



( $X^2$ 値=1.726, df=2)

図9 お互いの生活文化を学ぶことは大切だと思うか



( $X^2$ 値=4.295, df=2)

図10 自分の生活文化を他の国の人々に紹介したいか



#### 4. 考察とまとめ

前述のように、10の質問項目のうち8項目において、全体での肯定的回答が授業後で増加し、有意差が認められた。それらは、「他の国の民族衣装に興味があるか」、「他の国の民族衣装を着てみたいか」、「自分の生活に他の国のファッションなどを取り入れてみたいか」、「様々な国の民族衣装の違いはなぜ生まれるのか説明できるか」、「ファッションだけではなく、食べ物や住まい方など他の国の生活文化に興味があるか」、「生活文化が違うことを違って良い意味でおもしろいと思うか」、「日本と他の国の生活文化には似ているところがあると気付いているか」、「家庭分野の授業で、他の国の生活文化について学びたいか」の8項目であった。特に、「他の国の民族衣装に興味があるか」、「他の国の民族衣装を着てみたいか」については、それぞれ「興味がある」の回答率が33.3%から71.2%へ、「着てみたい」の回答率が26.1%から62.1%へというように、授業後に2倍以上に増加したのは、本授業において、様々な民族衣装を扱ったことで関心が高まったといえる。また、「様々な国の民族衣装の違いはなぜ生まれるのか説明できるか」については、「できる」の回答率が、授業前では約6%にすぎなかったが、授業後では62.3%と10倍以上に増加した。本授業において、それぞれの民族衣装の違いとともに、その国の気候や生活に合った工夫がされているという共通点に気付くという学習活動が行われたことの効果と捉えることができる。

「様々な文化背景を持つ人々が同じ地域で生活するために、お互いの生活文化を学ぶことは大切だと思うか」については、授業前においても「思う」の回答率が73.9%と7割を超えていた。それが、授業後に79.7%と微増したものの、有意差は認められなかった。これ

は、授業前から7割以上の生徒たちが「様々な文化背景を持つ人々が同じ地域で生活するために、お互いの生活文化を学ぶことは大切」という価値観をもっていて、そのことが影響したと考えられる。一方、「様々な文化背景を持つ人々が同じ地域で生活するために、お互いの生活文化を学ぶことは大切だと思うか」の授業前の「思う」の回答率が7割を超えていたにもかかわらず、「他の国の民族衣装に興味があるか」の授業前の「思う」の回答率は3割ほどにすぎなかった。お互いの生活文化を学ぶことは大切と思っただけでも、その機会がなかったところに、本授業が実施され、様々な国の民族衣装に触れ、関心が7割超へと高まったといえる。

「もし機会があれば、自分の生活文化を他の国の人々に紹介したいか」については、授業前に「したい」が41.2%と半数に満たなかった。それが、授業後に52.9%と過半数になったものの、有意差は認められなかった。これにより、授業後も約半数の生徒たちが、自分の生活文化を他の国の人々に紹介することには消極的であるといえる。

以上のことから、本研究において開発した多文化共生の視点を取り入れた中学校技術・家庭科家庭分野の授業とその教材は、多文化共生にかかわる意識や態度を育むのに有効であることがわかった。また、調査対象者の7割以上の生徒は、様々な文化背景を持つ人々が同じ地域で生活するために、お互いの生活文化を学ぶことは大切と考えていることも確認できた。

一方、自分の文化を他の国の人々に紹介することについては、授業後も約半数の生徒が消極的であった。今後は、消極的になるのが、外国語の語学力に対する自信のなさによるものか、紹介するという行為に対する忌避なのか等、理由を明らかにし、この課題を克服す

る授業開発を行っていききたい。

## 謝辞

本研究の実施に際して、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。また、本研究はJSPS科研費（JP15K04459）の助成を受けて行われたものである。

## 【注】

- (1) 2014～2016年度課題研究テーマに「グローバル化と家庭科」があり、その中に、3つの研究グループテーマが設置された。それらは、「日本にいる外国人の児童生徒への家庭科とその影響」「日本の家庭科（家庭科の内容や授業研究など）の国外への発信」「家庭科にグローバルな視点や内容をどう入れていき、家庭科がグローバルな人材育成にどうかかわれるか検討」であった。
- (2) Ueno, A., Hoshino, H., & Ito, Y. (2018). Instructional activities of multicultural education in Canadian home economics: a case of secondary school education, *Journal of the Japan association of home economics education*, 61(2), pp.71-82.

## 【引用文献】

- 外務省. (2020). 海外在留邦人数調査統計平和2年(2020年)版.
- 半田彩実. (2017). 家庭科教育と国際理解教育を関連づけた授業前後における中国に対するイメージ変化. *子ども教育研究：子ども教育学会紀要*, 9, 相模女子大学子ども教育学会編集委員会編, 35-43.
- 堀康二, 安永真理, 前田 英雄, 生野桂子, スタルジョ・スルジョセプトロ, 甲斐純子. (2005). 東南アジアの環境・食糧問題に関する認識-小学校家庭科における国際理解の視点をふまえた食物教育. *福岡教育大学紀要*, 第4分冊, 教職科編, 54, 301-307.
- 星野洋美. (2010). 多文化共生社会, 吉原崇恵編, *子どもが生きる家庭科*. 開隆堂, p.185.
- 星野洋美. (2017). 外国語活動と他教科の連携による内容言語統合型学習の成果と課題-家庭科と

の連携によるCLILの試み. *常葉大学外国語学部紀要*, 34, 25-33.

池崎喜美恵. (2000). 国際化と家庭科教育, 日本家庭科教育学会編, *家庭科の21世紀プラン*. pp.54-57.

厚生労働省. (2021). 「外国人雇用状況」の届出状況まとめ(令和元年10月末現在).

文部科学省. (2019). 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)結果.

文部科学省. (2019). 外国人児童生徒の受け入れの手引き改訂版.

文部科学省. (2017). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編.

文部科学省. (2017). 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説技術・家庭編.

文部科学省. (2018). 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説家庭編.

佐藤清子. (2000). 生活者としての発達とは, 日本家庭科教育学会編, *家庭科の21世紀プラン*. pp.37-38.

山崎真澄, 池崎喜美恵. (2011). 国際理解教育に視点をあてた中学校食物領域の指導-帰国生との比較から. *東京学芸大学紀要 総合教育科学系* 62(2), 209-217.

(資料1) 開発した教材「世界の民族衣装から衣文化を考えよう」の個人ワークシート

3-3. 個人ワークシート

世界の民族衣装から衣文化を考えよう!

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

日本の民族衣装と、他の国の民族衣装で知っているものをあげてみよう。

日本	他の国

1. グループになり、次のことをやってみよう。

①配られた他の国の民族衣装の上半身、または下半身のイラストと、その国の気候や生活文化についての説明文から、下半身、または上半身はどんな服を考え、合うと思われるイラストを赤マーカーで描く。  
②なぜ、そのような服の絵にしたのか、理由をイラストの下に書く。

2. 様々な民族衣装の違いはなぜ生まれるのかを考えてみよう。

3. 今日の学習を終えて

①素敵だな、格好いい、面白いと思った民族衣装は( )  
その理由 \_\_\_\_\_

②他の国の衣文化を学習することについてどのように思いますか(どんなところに興味を持ちましたか、それはなぜですか)。  
\_\_\_\_\_

(資料2) 開発した教材「世界の民族衣装から衣文化を考えよう」のグループワークシートの一部

<p>民族衣装 A</p> <p>【この国の気候や生活文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四季があり、夏は30度以上、冬は-10度以下。</li> <li>床に片ひざを立てて座りますが、衣装がゆったりしているので、不都合はありません。</li> <li>この民族衣装は、今は、結婚式やお葬式(おそうじぎ)などの特別な日によく着ます。</li> </ul>  <p>このような服にした理由 _____</p>	<p>民族衣装 F</p> <p>【この国の気候や生活文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>湿気に濡し、湿度が高いわりに湿気。</li> <li>この民族衣装は、もとは森で働く人の作業着でした。軍隊の制服だったときもありました。</li> <li>今では、主に山岳地帯で、儀式などの時に着ます。</li> </ul>  <p>このような服にした理由 _____</p>
---	---



（資料3）実施した授業「世界の民族衣装から衣文化を考えよう」の学習指導案

- 題材の目標： ①他の国の衣文化に興味関心を持つ。（態度）  
 ②他の国の衣文化と日本の食文化の相違点や相似点、またその背景に気付く。（知識）  
 ③文化の多様性を認め受け入れようとする。（態度）
- 準備物：  
 ・導入で示す民族衣装例の写真〔A3 サイズ〕（板書用各1枚〔中国の中華服、スイスの民族ドレスなどネットで検索。もし他の民族衣装で実物があれば実物を使う。〕）  
 ・世界地図〔B1 サイズ〕（板書用1枚）もしくは地球儀  
 ・班用ワークシート〔A3 サイズ〕（各班に民族衣装の上半身または下半身のイラスト1つを配布）  
 ・個人ワークシート〔A4の半分サイズ〕
- 参考文献：  
 ・高橋春子監修，2006，『民族衣装絵事典』，PHP 研究所  
 ・スコットランド-歴史の窓，[https://www.y-history.net/appendix/wh0603\\_2-058.html](https://www.y-history.net/appendix/wh0603_2-058.html)

授業展開

時間	生徒の学習活動	教師の指導・支援
導入 5分	日本の民族衣装と、他の国の民族衣装で知っているものを発表する。  本時の学習課題「世界の民族衣装から衣文化を考えよう」を知る。	個人ワークシートを配布する。例として着物や他の国の民族衣装の写真／実物を見せ、世界には様々な民族衣装があることに気付かせる。  本時は、様々な国の民族衣装について班で比較し、相違点や相似点、またその背景について考えていくことを伝える。
展開1 15分	4人1班になり、以下の活動を行う。 ①配られた他の国の民族衣装の上半身、または下半身のイラストと、その国の気候や生活文化についての説明文から、下半身、または上半身はどんな服かを考え、合うと思われるイラストを赤マーカーで描く。 ②なぜ、そのような服の絵にしたのか、理由をイラストの下に書く。	韓国のチマチョゴリ、ミャンマーのロンジー、パルーのマンタ、インドのサルワール・カミーズ、スコットランドのキルトのうち、上半身または下半身のイラストを1種類が描かれた班ワークシートを各班に配布する。また、各班に裏うつりしない赤マーカーを1本配布する。気候や生活文化の説明を参考にし、足りない部分のイラストを描くように指示する。
展開2 10分	下半身または上半身の服のイラストとそのように描いた理由を班ごとに発表する。	
展開3 10分	描いたイラストと元の民族衣装の違いを確認する。  様々な民族衣装はその国の気候や生活の違いから生まれることを理解する。	各民族衣装について、上半身と下半身が合わさっている元の民族衣装のイラストを示す。世界地図にそれぞれの民族衣装のイラストを貼っていく。  以下の補足もしながら、民族衣装はその国の気候や生活の仕方によって違いが生まれることに気付かせる。 *民族衣装Aは、韓国のチマチョゴリで、床に片ひざを立てて座りやすいようにゆったりとしたスカートになっている。 *民族衣装Bは、ミャンマーのロンジーで、生地は一般的には木綿が使われ、水洗のトイレでぬれても乾きやすい。また、足を大きく開いた場合でも、布地に余裕があるので、足を隠しやすい。 *民族衣装Cはパルーのマンタで、寒い高地において防寒・防風のために、服の上にはおることや、リヤマやアルパカの毛で織られているので温かい。 *民族衣装Dはインドのサルワール・カミーズで、日本ではパンジャビスーツとして知られている。サルワールはズボン、カミーズはシャツを意味する。動きやすいことから、一般的なファッションになっている。 *民族衣装Eは、スコットランドのキルトで、もとはタータンのような大きな布を腰に巻き、長い布を広げてひだを作り、ベルトやひも、ピンで留めて着用し、長い余り布は、足元の防寒や頭にかぶり防雨に使われた。
まとめ 10分	様々な民族衣装の共通点を考える。  様々な民族衣装の違いが生まれる理由と、素敵だな、格好いい、面白いと思った民族衣装はどれかとその理由を個人ワークシートに記入し、発表する。	民族衣装は違っても、その国の気候や生活に合わせた民族衣装があるという共通点に気付かせる。  多文化共生の視点で違いを受け入れる態度もこれからの生活に役立つスキルであることを伝える。例）自分が他の国に行ったときや、日本で他の国の人に会った時などに役立つなど。